

2023. 2. 14

報道関係者 各位

<配信枚数3枚>

■立命館大学日本バイオ炭研究センター・日本バイオ炭コンソーシアム 開設記念■

**脱炭素社会の実現に向けた産官学連携事業が始動
カーボンマイナス社会の早期実現を目指しシンポジウム開催
「バイオ炭による炭素隔離と社会実装～バイオ炭と炭素貯留証明～」**

日 程 : 2023年3月7日(火)・8日(水)

開催場所 : 立命館大学大阪いばらきキャンパス

立命館大学日本バイオ炭研究センター(センター長:柴田 晃)と日本バイオ炭コンソーシアムは、開設記念シンポジウム「バイオ炭による炭素隔離と社会実装～バイオ炭と炭素貯留証明～」を、3月7日(火)・8日(水)、立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)で開催いたします。

二酸化炭素削減のための活動において、バイオ炭施用による炭素隔離(CCS :Carbon Capture, and Storage)が大気中の二酸化炭素の絶対量を簡便に削減する方法として世界的に注目されています。本学は、この削減方法を社会実装して推進するために、学内外のバイオ炭に関係する研究者を招集し、関連領域の人材育成を同時に担う国際的な研究拠点となる日本バイオ炭研究センターを、2022年11月に設置しました。また、同センター内には、国内外のバイオ炭の貯留に係る社会実装をより加速化するため、産業界からは丸紅株式会社はじめ多数企業、学術・研究機関、自治体、農業法人やNPOなど40以上の会員数(2023年2月時点)が参画する、日本バイオ炭コンソーシアムを設立しました。産官学民の相互連携を通じて、バイオ炭による炭素隔離技術を活用した社会的課題の発見、解決に向けた取り組みの検討、地域活性化や農業振興などさまざまな課題に取り組みます。

日本バイオ炭研究センター、日本バイオ炭コンソーシアムの開設を記念して開催する今回のシンポジウムでは、参画する国内研究者をはじめ農林水産省、企業、地方自治体などが一堂に集まり、最新のバイオ炭の研究成果や活用方法、普及活動に向けた方策などを議論します。

記

日 時 : 2023年3月7日(火)・8日(水)
場 所 : 立命館大学大阪いばらきキャンパス (住所:大阪府茨木市岩倉町 2-150)
オンライン(ZOOM)での参加も可能
対 象 : 参加自由(どなたでもご参加できます。)
参 加 費 : 無料
申 込 方 法 : 日本バイオ炭研究センター <https://www.ritsumeikan.ac.jp/research/brc/top/>
HP内最下段のシンポジウム案内より申込
主 催 : 立命館大学日本バイオ炭研究センター、日本バイオ炭コンソーシアム
共 催 : 日本バイオ炭普及会
後 援 : 日本炭化学会

以上

本リリースの配布先 : 京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:池田 TEL. 075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumeikan.ac.jp

別紙**■当日のプログラム(予定)****3月7日(火)13時~17時 <1日目>**

挨拶	徳田昭雄 立命館大学 副学長/学校法人立命館 副総長 柴田晃 立命館大学 日本バイオ炭研究センター長 山本泰生 環境省 大臣官房環境経済課 市場メカニズム室 室長 湯澤将憲 国土交通省 都市局公園緑地・景観課 緑地環境室長
講演①	日本バイオ炭研究センターとコンソーシアムの意義と社会実装プラットフォーム 依田祐一 立命館大学経営学部 教授/日本バイオ炭研究センター副センター長
講演②	ゼロエミッションにおけるバイオ炭の効用 坂西欣也 国立研究開発法人・産業技術総合研究所
講演③	バイオ炭を活用した地域循環型モデルの構築 竹下光雄 株式会社長大 エコプロ・エネルギーグループ課長
講演④	バイオ炭をめぐる事情 鈴木裕 農林水産省農産局農業環境対策課 課長補佐
講演⑤	バイオ炭 Jクレジット事業における LCA (ライフサイクルアセスメント)の重要性 中野勝行 立命館大学政策科学部 准教授
講演⑥	ガス化炉による再生可能エネルギー創出とバイオ炭活用 柳田高志 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 バイオマス利用システムチーム チーム長
講演⑦	建築資材でのバイオ炭の活用と普及の可能性 小島啓輔 清水建設 技術研究所

3月8日(水)9時~14時 <2日目>

講演⑧	大気 CO ₂ 除去法としてのバイオ炭の特質と今後の展望(仮) 岸本 Mo 文紅 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構) 気候変動対応研究領域 上級研究員 (予定)
講演⑨	木質炭化物と菌根菌を活用した植栽・樹勢回復手法 栗栖敏浩 株式会社 松本微生物研究所 専務取締役
講演⑩	<事例紹介 3>【野菜の卸売り業者】バイオ炭と環境保全型野菜の販売 喜屋武誠司 北総クルベジファーマーズ会長、有限会社ゆうき代表取締役
講演⑪	<事例紹介 4>【自治体】バイオ炭普及に向けた自治体の取り組み 島根県雲南市役所
講演⑫	<事例紹介 5>【製炭者+農業者】バイオ炭の製造と活用者の連携【製炭者+農業者】 中島伸二郎 有限会社プロス代表取締役
講演⑬	<事例紹介 6>【商社】バイオ炭クレジットの販売戦略と課題 荒木岳志 丸紅株式会社 アグリ事業本部アグリインプット事業部 マネージャー
講演⑭	バイオ炭の Jクレジット申請とその実務 a) バイオ炭品質証明について 沖森泰行 立命館大学日本バイオ炭研究センター 客員研究員 b) 申請手続きとその課題 小澤史弘 一般社団法人日本クルベジ協会 主幹
講演⑮	世界のバイオ炭クレジット市場と Jクレジット 沖森泰行 立命館大学日本バイオ炭研究センター 客員研究員
会員制研究会	日本バイオ炭コンソーシアム 会員制研究会(非会員の方も参加可) コンソーシアム内の個別研究会の案内 予定:バイオ炭規格研究会、公園緑地研究会、LCA 研究会、繊維炭化研究会、 地域モデル研究会 等 (終了後、一部の研究会は、個別に会合を開催予定)

■バイオ炭とは

バイオ炭は、「燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる固形物」であり、土壌への炭素貯留効果とともに土壌の透水性を改善する効果が認められている土壌改良資材です。二酸化炭素削減のカギを握る資材として注目を集めており、本シンポジウムではバイオ炭を活用したさまざまな事例を紹介します。



■立命館大学カーボンマイナスプロジェクト

立命館大学では、カーボンマイナスの実現に向けて、さまざまな研究活動を推進しています。本プロジェクトは、研究アウトリーチ活動の一環で、バイオ炭による炭素貯留のカーボンマイナスのプラットフォームとビジネス・エコシステムの形成を促して、製炭業者の方々や農家の方々だけではなく、消費者、企業等を含めた多様な事業者・個人の共創・共生を目指します。カーボンマイナスの社会実装の実現に向け、化石燃料等で掘り出された二酸化炭素を再び地下に戻すことで、大気中の二酸化炭素の総量を減らすための試みを行っています。現在はバイオ炭を用いて植物が光合成によって蓄えた二酸化炭素を地中に戻す活動について情報発信を行っています。

【立命館大学カーボンマイナスプロジェクトHP】

<https://www.ritsumeikan-carbon-minus.org/>

■立命館大学日本バイオ炭研究センター

日本のバイオ炭研究をリードする研究拠点を目指し、2022年11月に設立しました。これまでのバイオ炭に関する研究を活用した温暖化防止の貢献、産学官連携によるバイオ炭の社会実装を推進し、関連領域の人材育成を行いつつ、バイオ炭の環境保全機能に関する研究やライフサイクルアセスメント(LCA)手法の開発、バイオ炭を広めるための取り組みを行っています。

<研究センターの概要>

名称：立命館大学日本バイオ炭研究センター

設置場所：大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学大阪いばらきキャンパス内

所属研究者：27名

■日本バイオ炭コンソーシアム

立命館大学では、産官学民の連携によるバイオ炭の社会実装化の推進を図るための組織として、日本バイオ炭研究センターの下に「日本バイオ炭コンソーシアム」を2022年12月に設立しました。バイオ炭活用による温暖化防止に資するカーボンマイナスの社会実装の実現、バイオ炭の環境保全機能(炭素貯留及び土壌改良)の向上及び実現並びに地域の拠点として産官学の連携の高度化や人材育成を行うことを目的としています。

2023年2月時点で、丸紅株式会社、株式会社長大、ヤンマーエネルギーシステム株式会社、株式会社フジタ、株式会社神鋼環境ソリューション、シン・エナジー株式会社といった産業界をはじめ、学術・研究機関、自治体、農業法人やNPOなど40以上の会員が参画しています。

本コンソーシアムでは、主な事業として以下事業を行います。

- ①会員制研究会の実施
- ②ワークショップ、セミナー、シンポジウムの開催
- ③情報システムの構築・維持運用
- ④バイオ炭に係る品質証明
- ⑤広報、情報共有・情報発信